

## “鬼”にも性別がある!

顎が長くしゃくれているのが女の鬼の「般若」。男の鬼の顔は四角いシルエットをしています。一目で見分けが付きませぬ。



## 衣装や面はものすごく高い!



神楽の衣装は職人さんが手作りするオーダーメイド。同じものは二つとありません。衣装は地域の人々の寄付で賄われることが多く、それゆえ古くなって使えなくなった衣装も神楽団で大切に保管しています。

## 奉納神楽鑑賞の必須アイテムはこちら

きれいにイスが設置されたホール神楽とは異なり、奉納神楽はほとんどの場合ブルーシートが敷いてあるのみか、それさえもないこともあります。秋とはいえ夜は極寒。真冬並みの防寒対策をしていきましょう。座椅子やマットなどがあるとなおよし。お酒を飲みながら夢見心地でゆくりと鑑賞するのがスタンダードなスタイルです。バザーがないこともあるので食べ物飲み物も用意しましょう。

## 注目 歌声や動きにも上演中は楽人の

舞に目がいきがちですが、大太鼓をはじめとした楽人は演奏とともに歌も披露しています。この歌は神楽団ごとに特徴があり、聞き比べてみるのも楽しいです。時にはストーリーが盛り上がるにつれて、飛びながら太鼓をたたいたり、動き回りながら手打ち鉦をたたいたり、舞い手より目立ってしまう楽人の姿も。舞以外にも見どころが潜んでいます。

子どもをさらおうと狐が舞台から降りてくる可能性大。狐が近づくと恐ろしくて泣き叫ぶ子どもが大人には微笑ましく映りますが、子どもにとっては恐怖でしかありません。

## 子どもが怖がる『悪狐伝』



## 子どもに人気『恵比寿』

神社などで行われる時には、上演中にお菓子や餅などが撒かれることがあり、演目が始まる前から子どもが舞台前に群がります。



秋に行われる奉納神楽はその地域の1年の収穫、繁栄(豊作)を神様に感謝する大切な行事。19時頃から始まり深夜まで舞い続けます。特に終了時間は決まっておらず、ひと昔前は翌日の午前3時頃まで行われることもしばしば。最近では24時頃に終了することが多いようです。ちゃりのトークがいつもより長かったり、立ち合いで鬼がなかなか死ななかつたり、せっかく死んだ鬼が観客の拍手で生き返ったり、一般的な公演ではできないアドリブや観客との一体感が魅力です。

## より地元感を楽しむなら秋祭りへ

## 3. 素朴な疑問に答えます。

### ●化粧は女性用のものを使っているの?

ファンデーションは舞台用のものを市内の美容院やネットショップで購入していますが、ファンデーションの前につける化粧水や乳液は女性が使っているものと同じものをドラッグストアなどで購入しています。肌のお手入れにも余念がありません。



### ●神楽情報はどこで得たらいいの?

神楽団の中にはホームページやフェイスブックで公演情報を発信しているところもあります。秋の奉納神楽は、観光協会が市内22神楽団の情報をまとめ、「神楽地祭り日程表」として発行しています。



### ●どのくらい練習しているの?

神楽団によっても異なりますが、だいたい週に2~3回。団員は学生以外、みんな仕事をしているので集まるのは20時頃で、通常23時頃まで練習しています。

### ●役は誰がどうやって決めているの?

こちらも神楽団やその時の状況によって異なります。団長が決める場合もあれば、団員の立候補で決まることもあるそうです。演目などによって臨機応変に決めている神楽団が多いようです。



### ●神楽をやりたいと思ったら何歳からでも始められるの?

年齢制限はなく、下は話していることが理解できるようになった幼児から上は何歳からでも始められます。

### ●演目中写真はとっていいの?

会場にもよりますが、基本的には撮影OKです。ただし、フラッシュ撮影はご遠慮ください。

### ●どうしたら神楽団に入れるの?

直接、神楽団に申し込むのが一番早い方法です。公演終わりなどに話しかけてみるといいでしょう。



### ●その写真をSNSにあげていいの?

SNSにアップしても大丈夫ですが、事前に団員さんにひと言了解を得るとなお良いでしょう。



## 団員は体調管理にとっても気を使っている!

神楽はとてもハードで、演目が終わった後はしばらく立てなくなったり、嘔吐してしまう団員もいるほど。長い演目をやりきるため、団員さんは平日頃から体調管理にとっても気を使っています。「神は面がないので舞台上で苦しい表情ができません。後ろを向いている時に思いっきり顔をゆがめて空気を吸っています」。(某神楽団副団長談)「いやいや、鬼は面でもとても息苦しい。視界も狭いから派手に舞う時は大変」(某神楽団 鬼担当談)。どちらも体力勝負だということは間違いありません。

## 『御花』って何?

“御花”とは神社のお賽銭と同じ意味合いのいわゆるお金のこと。いくらとは決まっておらず、あくまでも“気持ち”ですが、1,000円から3,000円が相場のようなようです。